

建設業、製造業、小売業の業況感が改善傾向を示すも、来期予測は厳しさ増す！

— 2016年4月～6月期 中小企業景況調査報告書概要 —

日銀が7月1日に発表した6月の企業短期経済観測調査（短観）によると、企業の景況感を示す業況判断指数（D・I）は、大企業・製造業で前回3月調査（プラス6）から横ばい、大企業・非製造業はプラス19と前回から3ポイント悪化しており、2期連続で悪化となっている。中小企業・製造業はマイナス5と前回3月調査から1ポイント悪化、非製造業も3月調査から4ポイント悪化して±0となっており、製造業及び非製造業ともに連続して悪化している。

大企業・製造業の業況判断D・Iは、このところの円高傾向により「自動車」など、円高の直撃を受ける輸出依存度の高い業種を中心に景況感が悪化した。一方で、「食料品」などでは、原材料の輸入などで円高の影響がプラスに表れたため横ばいにとどまった。ただ、大企業・非製造業は、中国人の「爆買い」など、小売店などの売り上げを押し上げてきた訪日外国人の消費が円高の影響で弱含み、「小売り」や「宿泊・飲食サービス」が悪化した。

3カ月後の先行きの見通し（本年9月予測）は、大企業・製造業がプラス6と今期と同じ水準を維持、大企業・非製造業はプラス17と今期よりも2ポイントの悪化と予測。中小企業においては、製造業が2ポイント悪化しマイナス7、非製造業は4ポイント悪化しマイナス4となっており、厳しい見込みとなっている。さらに、今回の調査は、英国のEU離脱問題をほとんど織り込んでおらず、日本経済には更に強い逆風が吹いてくることも考えられる。

内閣府が6月17日に発表した6月の月例経済報告においては、国内景気の基調判断を「景気は、このところ一部に弱

さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている」として3カ月連続で据え置いた。

海外経済についても「弱さがみられるものの全体としては緩やかに回復している」との判断を4カ月連続で維持した。しかし、個別項目では、企業収益の判断を「高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられる」として、前月の「改善傾向にあるが、テンポは緩やか」との表現から2カ月連続で下方修正した。

商工会地域の景況調査においては、今期（2016年4月～6月）の業況に関するD・I値は、マイナス幅が小さい順に、建設業マイナス13.6、サービス業マイナス17.3、製造業がマイナス25.0、小売業マイナス34.1となっている。前期に比べるとサービス業が2.2ポイント悪化しているが、建設業13.7ポイント、製造業19.8ポイント、小売業8.4ポイントといずれも大幅に改善している。

来期（2016年7月～9月期）の業況予測については、サービス業マイナス19.6、建設業マイナス31.5、製造業がマイナス32.2、小売業マイナス39.5となっている。全業種が今期よりも悪化すると予測しているが、中でも建設業は今期のマイナス13.6からマイナス31.5と17.9ポイントも大幅に悪化すると予測している。

今期の商工会地域の景況感は、建設業や製造業が回復傾向にあり、全体としては改善傾向にあると思われる。しかし、今後は、イギリスのEU離脱問題や急激な円高水準など景気全体の動きとしては、厳しさが増すと思われる。

（中小企業診断士 橋本大輔）

業界天気動向図

| 項目 年 月 業種 | 売上 | | | | 採算（経常利益） | | | | 資金繰り | | | |
|--------------------|-------------------------|-----------------|-------------------------|---------------|-------------------------|-----------------|-------------------------|---------------|-------------------------|-----------------|-------------------------|---------------|
| | 7 H 5 27 9 年 月 | 10 5 12 月 | 1 H 5 28 3 年 月 | 4 5 6 月 | 7 H 5 27 9 年 月 | 10 5 12 月 | 1 H 5 28 3 年 月 | 4 5 6 月 | 7 H 5 27 9 年 月 | 10 5 12 月 | 1 H 5 28 3 年 月 | 4 5 6 月 |
| 製造業 | | | | | | | | | | | | |
| 建設業 | | | | | | | | | | | | |
| 小売業 | | | | | | | | | | | | |
| サービス業 | | | | | | | | | | | | |

各項目については次により表示した。

| 区分 | 増加 好転 | やや増加 やや好転 | 横ばい | やや減少 やや悪化 | 減少 悪化 | 大幅に減少 非常に悪化 |
|----|-------------|--------------|----------|--------------|------------|----------------|
| | D・I値(前年同期比) | 20.1～ | 5.1～20.0 | 5.0～△5.0 | △5.1～△20.0 | △20.1～△35.0 |
| 表示 | 快晴 | 晴れ | 曇り | 小雨 | 雨 | 豪雨 |

今期直面している経営上の問題点需要の停滞

（数値の左は前期構成比、右は当期割合を%で記す）

| 業種 | 1位 | 2位 | 3位 |
|------------------|--------------------|-----------------------------|--|
| 製造業 | 1位にあげる問題点 需要の停滞 | 製品ニーズの変化 | 原材料価格の上昇、製品（加工）単価の低下、上昇難、 熟練技術者の確保難 |
| 前期 | 32.1 | 10.7 | — |
| 今期 | 24.1 | 20.7 | 10.3 |
| 建設業 | 1位 | 2位 | 3位 |
| 1位にあげる問題点 | 官公需要の停滞、民間 | 請負単価の低下、上昇難、取引条件の悪化、従業員の確保難 | — |
| 前期 | 14.3 | 21.1 | — |
| 今期 | — | — | 10.5 |
| 小売業 | 1位 | 2位 | 3位 |
| 1位にあげる問題点 | 購買力の他地域への流出 | 大型店・中型店の進出による競争の激化 | 需要の停滞 |
| 消費者ニーズの変、従業員の確保難 | — | — | — |
| 前期 | 11.9 | 19.0 | 7.1 |
| 今期 | 19.5 | 17.1 | 14.6 |
| サービス業 | 1位 | 2位 | 3位 |
| 1位にあげる問題点 | 店舗施設の狭小・老朽化 | 需要の停滞 | 利用者ニーズの変化、従業員の確保難 |
| 新規参入業者の増加 | — | — | — |
| 前期 | 5.8 | 25.0 | — |
| 今期 | 19.6 | 13.0 | 10.9 |
| | | | 5.8 |
| | | | 8.7 |